

日本の美と心を伝える 「青葉能」

市長 米本弥一郎



千葉市にある青葉の森公園芸術文化ホールに設置された、県内唯一の組み立て式能舞台での「青葉能」を鑑賞しました。子どもから大人まで、みんなで能舞台を楽しもうという催しで、今年で44回目を迎えます。

鑑賞は昨年到现在2回目です。初めてだった昨年は、事前にパンフレットやテレビ中継で一通り勉強しましたが、よく理解できず「チケットを買って失敗だったかな」と思いつながりながら会場へ。しかし結果は「大正解」。生で見る舞台の迫力に魅了され、今年のチケットを早々に購入するほどの大ファンになりました。

今回は、狂言「萩大名」、舞囃子まいばやし「松風」、能「清経」の3つの演目が披露され、人間国宝の山本東次郎さんや友枝昭世さんなど、日本を代表する能楽師が出演しました。

開演すると、最初に能や狂言の解

説が始まります。奈良時代に中国から伝来した「散楽」さんかくがルーツであることや、シリアスとコミカルな演目があり、人の表と裏を表現していることなど、丁寧な説明がありました。舞台上では、能面を付けた演者が、首の角度を変えるだけで表情の変化を感じさせたり、演奏する囃子方がかけ声とともに顔を紅潮させたりする姿や、8人の地謡が目を閉じて集中し、謡の音を互いに合わせる様子などが見られました。600年以上続く伝統を肌で感じ、歴史の教科書で学んだ観阿弥・世阿弥の世界に触れることができました。

「日本の伝統芸能を次世代へ伝えたい」という思いが伝わってくるとともに、日本人の根っこにある大切なものを感じられる良い機会となりました。皆さまにも、ぜひ一度体験していただけたらと思います。